

域別症候群シリーズ 24, 日本臨床社, 大阪, 1999, 22-24

5) 深谷修作, 鳥飼勝隆: EB ウイルス脳炎. 感染症症候群 I. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 24, 日本臨床社, 大阪, 1999, 25-28

6) Scully, R. E., Mark, E. J., McNeely, W. F. et al.: Case record of the Massachusetts General Hospital. N Engl J Med 1998, **338**: 112-119

7) 生田和良: ボルナ病ウイルス研究の最新動向. 医学のあゆみ 1997, **181**: 533-537

8) 吉田一郎: Reye 症候群. 感染症症候群 III. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 25, 日本臨床社, 大阪, 1999, 120-123

9) 水口 雅, 井合瑞江, 高橋幸男: 急性壊死性脳症.

最近の進歩と今後の展望. 脳と発達 1998, **30**: 189-196

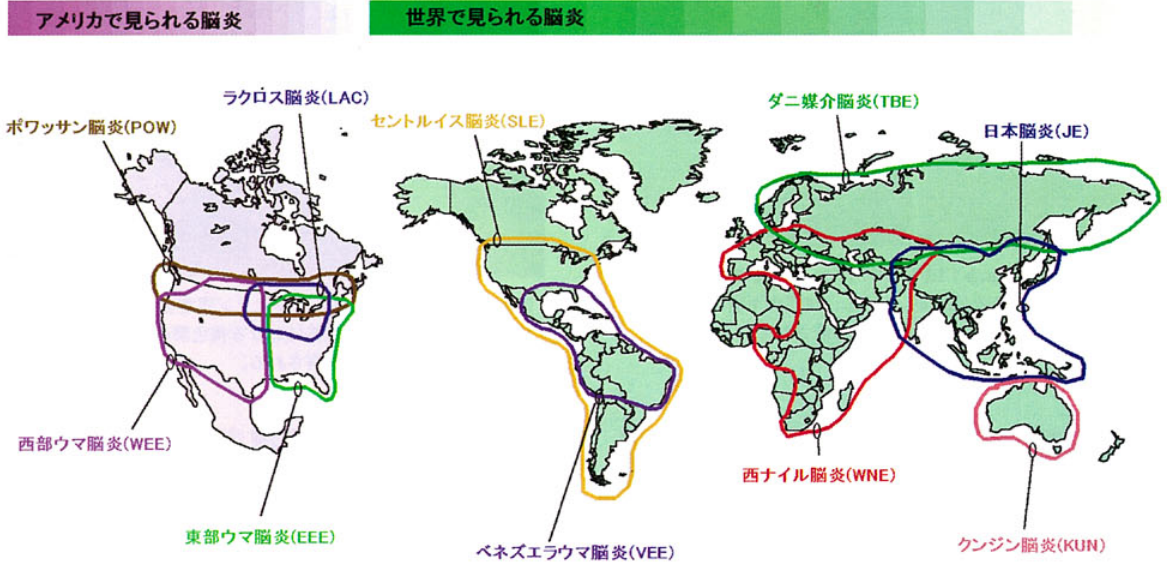
10) 立石 潤: クロイツフェルト・ヤコブ病とその周辺. 病理と臨床 1985, **3**: 1083-1087

11) 特集, プリオン病: 人畜共通病の理解のために. 医学のあゆみ 1997, **180**(4): 211-224

12) 宇高不可思: Gerstmann-Sträussler-Scheinker 症候群. 感染症症候群 I. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 23, 日本臨床社, 大阪, 1999, 218-221

13) DeArmond, S. J., Prusiner, S. B.: Prion Diseases. Diagnosis of human prion diseases. In: Greenfield's Neuropathology (eds. Graham, D. I., Lantos, P. L.), 6th ed., Edward Arnold, London, 1997, 239-268

■ 節足動物媒介性脳炎の分布図



主なウイルス性脳炎の発生地域を示す。

日本脳炎 (JE) : アジア各地で毎年 45,000 人以上の患者発生が報告されている。

ダニ媒介性脳炎 (ロシア春夏脳炎 : TBE) : 西欧での死亡率は 5% 前後だが、ロシアでは約 25% と推定される。

西ナイル脳炎 (WNE) : ルーマニアで 1996 年に大発生。蚊が媒介する。SLE ほど死亡率は高くない。

クンジン脳炎 (KUN) : WNE とほぼ同じ症状を示すが、発生はほぼオーストラリアに限られる。

セントルイス脳炎 (SLE) : 蚊が媒介する脳炎で、アメリカでは症例が多い。死亡率は 5~15%。

ベネズエラウマ脳炎 (VEE) : EEE や WEE ほど危険ではない。小児は脳炎に至るが、成人ではかぜ症状程度ですむ。

東部ウマ脳炎 (EEE) : 発生数は多くないが、非常に危険。患者の 3 分の 1 が死亡し、脳障害も重い。

西部ウマ脳炎 (WEE) : 東部ウマ脳炎ほど怖くはないが、死亡率は約 3%。脳障害が残る症例は 5~30%。

ラクロス脳炎 (LAC) : ウィスコンシン州ラクロスで 1963 年に発見された。死亡率は 1% 以下。

ポワッサン脳炎 (POW) : ごくまれにしか発生しないが、ダニが媒介する脳炎で詳細な記録のあるのはこれだけ。